

平成28年度群馬県立自然史博物館活動の評価について

群馬県立自然史博物館専門委員 中村 修美

博物館の業務には、資料の収集・保管、展示・教育普及、調査研究がありますが、全体としてよく実施されていると思います。また、平成28年度には開館20年目を迎え、今後10年間に取り組むべき指針としての「基本構想」を取りまとめています。今後の方針も明確に示されていますので、この指針に基づきしっかりと博物館活動を進めてください。

これまでの活動に問題はないですが、数点コメントさせていただきます。

自然史博物館の県内での認知度の調査を行われていますが、大変重要な調査です。どの博物館にとっても認知度を向上させることは重要なテーマです。多様な対策が考えられる中で、全小学校へのチラシの配布は多大な効果があります。これは継続していくことで、より大きな成果が見込まれます。今後も是非継続してください。

資料は学術的な意味だけではなく、県民の財産であり、ひいては国の財産でもあります。この資料をいかに後世に残していくかは、博物館にとって重要な課題です。資料管理において、総合的病害虫管理（IPM）は大変重要な作業です。この中で、虫害防止と同様にカビによる被害防止も重要です。いったん発生したカビを除去するのは大変な労力を必要としますし、完全に除去するには大変難しいことです。また、収蔵庫の燻蒸を行っても、条件によっては害虫を完全に駆除できないとの報告もあります。これらのことから、日常のIPMが重要になってきます。清掃の実施では、広い収蔵庫を一度に実施するのは困難だと思います。場所を決め定期的に順繰りに清掃を行うことにより全体の清掃を進め、合わせてIPMを確実に進めてください。

資料の管理に関しては、画像データベースが有効です。分野によりますが、同じ資料の名称でもその形態は大きく異なります。画像データベースになっていれば、資料の確認なども容易になります。すでに着手されておられますが、時間はかかっても少しずつでも着実に進めてください。

政府は2020年に訪日客4000万人を目標に掲げています。今後、外国人の訪問者が増えることが予想されます。外国人訪問者のために各種印刷物を用意することができれば良いですが、予算的な問題もあると思います。すでにWifiが設置されているとのことで、その活用については検討を進めていることと思います。収蔵品やイベントの情報も重要ですが、館内で情報にアクセスできる展示解説などは、多言語で対応しやすい内容だと思います。有効な活用を検討するとともに、ぜひ実施を進めてください。